

猿を詠む

北半球で北限の猿が知られる日本では、昔から猿がさまざまな場面に登場する。俳句でもそれは同じで、芭蕉にも猿を詠んだ句がある。ところが歳時記に載った猿の季語は自然の猿ではなく、「猿酒」あるいは「ましら酒」が秋の季語として、また「猿廻し」「猿曳」「猿使ひ」が新年の季語として載っているだけである。

| | |
|---------------|------|
| 猿引は猿の小袖をきぬた哉 | 松尾芭蕉 |
| 竹馬をよけて通るや猿まはし | 高浜虚子 |
| 猿廻し去る時雪の戸口かな | 原 石鼎 |
| 曳猿の紐いつぱいに踊りをり | 星野立子 |

季語ではなく猿が登場する句は、俳諧七部集の一つで蕉門の最高峰の句集とされる『猿蓑集』の題名の由来となった、芭蕉の「初しぐれ猿も小蓑をほしげ也」以来たくさんある。松沢哲郎さんたちの案内で、私も妻と幸島へ行く機会を得たとき幸島の猿を詠んだ。

| | |
|-----------------|------|
| 猿まねて紅諸洗ふ夏の浜 | 尾池和夫 |
| ボス猿がまつ寄つて行く焚火かな | 尾池和夫 |
| 犬枇杷を食みサル学の起源など | 尾池葉子 |
| 女子学生ひとり居残る土用凧 | 尾池葉子 |

しかしこれらの句には季語として猿が登場したのではない。松沢哲郎さんたちと俳句の話をしたとき、自然の猿を季語として登場させたいという話題が出たことがある。もちろん季語には季節感にあふれるものがなければならないから、一年中活動する猿そのものではなく、猿の四季の特長をとらえた言葉であることが重要である。すぐに皆が思いつくのは、日本の猿の季節感が冬に見られる「猿団子」である。歳時記に載る季語は、日本の歴史の中で育てられた言葉の結晶であり、新しい季語が登場するためには、よほどの名句が俳人たちに認知されたときに限られる。

そこで丙申年の今年、皆さんにもぜひ猿団子の名句を詠んでいただき、自然の猿の季語を新しく歳時記に載せることに貢献してほしいと思っている。



(日本モンキーセンター理事長 尾池和夫)

申年イベント開催しました

よざる 夜猿神社

最も一夫一妻性が強いと言われるヨザルをお祭りし、良縁成就と夫婦円満を願いました。

他にも「厄去るヤクニホンザル」「必勝祈願ハヌマンラングール」など10種の霊長類のご利益を考え「七福猿と三賢人巡り」を開催しました。



賽銭は動物たちのために。



ご利益がありそうな10種の霊長類の絵馬も制作。

サルにお年玉

お正月は、全ての動物たちに小さな幸せを届けたい！ということで、元旦から1/11(月・祝)までの11日間で、バックヤードの飼育個体も含む約900頭の全てに、飼育員が工夫したお年玉を届けました！

ワオキツネザル



Waoランドではくす玉フィーダーでお祝い。ワオキツネザルも来園者と一緒に楽しみました。

ポリビアリスザル



リスザルには彼らの健康を考えた紅白の食材などを鈴型フィーダーでプレゼント。取材陣もいっぱい！

カニクイザル



バックヤードのカニクイザルたちも、白米でつくった鏡餅でお祝いしました。

エリマキキツネザル



マダガスカル館のキツネザルたちにはフルーツ盛りをプレゼント。

